

第964回教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和5年1月17日（火）午後1時30分
- 2 招集場所 第一会議室
- 3 出席者 伊東教育長，齋藤委員，千木良委員，小川委員，佐浦委員（小室委員欠席）
- 4 説明のため出席した者
遠藤副教育長，渋谷参事兼総務課長，高橋教育企画室長，鈴木福利課副参事，鏡味教職員課長，佐々木義務教育課長，遠藤高校教育課長，市岡特別支援教育課長，熊谷施設整備課長，大宮司保健体育安全課長，武田参事兼生涯学習課長，天野技術参事兼文化財課長 外

5 開 会 午後1時30分

6 第963回教育委員会会議録の承認について

伊東教育長 （委員全員に諮って）承認する。

7 第964回宮城県教育委員会定例会会議録署名委員の指名，議事日程について

伊東教育長 齋藤委員及び小川委員を指名する。
本日の議事日程は，配布資料のとおり。

8 秘密会の決定

6 議事

第1号議案 宮城県生涯学習審議会委員の人事について

伊東教育長 「6 議事」については，非開示情報等が含まれているため，その審議等については秘密会としてよろしいか。
（委員全員に諮って）この審議等については，秘密会とする。
秘密会とする案件については「9 次回教育委員会開催日程」の決定後に審議等を行うこととしてよろしいか。
（委員全員異議なし）

※ 会議録は別紙のとおり（秘密会のため非公開）

9 教育長報告

「県立高校における1人1台タブレット端末の導入について，令和8年度以降も私費ではなく公費負担での実施を求める請願」への対応について

（説明者：遠藤副教育長）

「県立高校における1人1台タブレット端末の導入について，令和8年度以降も私費ではなく公費負担での実施を求める請願」への対応について御説明申し上げます。資料は，1ページから2ページである。

昨年12月21日付で，民主教育をすすめる宮城の会から「県立高校における1人1台タブレット端末の導入について，令和8年度以降も私費ではなく公費負担での実施を求める請願」が提出された。

これまで，県立高校における1人1台端末環境の整備については，生徒の端末活用スキルや情報活用能力が格段に向上するなど教育効果が大きい私物端末の持ち込み，いわゆるBYODを基本方針としつつ，国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金等を財源に，生徒用貸出端末の整備をできる限り行ってきたところであり，今年度末までに1人1台端末環境を整備するための端末の購入を進めている。

タブレット端末機器の耐用年数は概ね5年程度が目安とされており，令和7年度末には令和3年度から公費で整備している端末が耐用年数を迎えるなど，順次，更新時期を迎えていくこととなるが，本県にお

いては、国による恒久的な支援が見込まれない中、県単独の予算のみで端末を整備し続けることは困難であることが想定されるため、今後の更新時期を見据えながら、BYODによる整備を基本方針として取り組んでいくとともに、国に対して引き続き恒久的な財政支援を求めていきたいと考えている。

なお、端末の購入が難しい世帯への配慮等も必要となることから、今後も引き続き一定数は公費により整備していきたいと考えている。

請願者に対しては、以上のような内容で回答したいと考えている。

本件については、以上である。

(質 疑)

小 川 委 員 1人1台タブレット端末に関する請願ということだが、タブレットのみということか。Chromebookも含まれるのか。

高 校 教 育 課 長 タブレット端末については、iPadを原則としているが、学校側の要望に応じてChromebookを整備する場合もある。ただ、ほとんどの学校ではiPadを使用している。

小 川 委 員 iPadは高価なので、故障した場合の修理等も大変だと思うが、もう少し安価な端末を整備する方向性もあると感じた。iPadと比べるとChromebookの方がリーズナブルだと思うがいかがか。

高 校 教 育 課 長 御指摘のとおり、Chromebookの方が若干購入費用は抑えられるが、活用する場面ではiPadの方が使い勝手が良いという学校もある。また、これまで県としてはiPadを原則として整備してきたという背景なども踏まえ、iPadを活用したいという学校が多いという状況である。

小 川 委 員 そうすると、使いたい機種によって学校の負担が変わってくるようになると思うが、その点についてはどうか。

高 校 教 育 課 長 機種の違いはあるが、基本とするアプリなどは共通しているものも多いため、機種による負担の違いはそれほど想定していない。

10 課長報告等

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果（宮城県分）について

(説明者：保健体育安全課長)

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(宮城県分)について御説明申し上げます。

この調査は、国が、全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを主な目的として、県内全ての小学校5年生・中学校2年生を対象に実施しているものである。

はじめに、1ページを御覧願いたい。調査の概要であるが、「(1) 調査期間」は令和4年4月から7月末まで、「(2) 調査対象」は小学校5年生の男女、中学校2年生の男女の全員であり、学校数及び児童生徒数については、(3)の表のとおりである。調査事項は、(4)に記載した8種目の「実技に関する調査」と、「質問紙調査」の2種類となっている。

次に、2ページを御覧願いたい。実技に関する調査の結果である。このグラフは、実技8種目を合計80点満点とした体力合計点を、本調査が始まった平成20年度から全国と比較して、その推移を表したものである。平成23年度は東日本大震災、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により記録がない。実線が本県の推移、点線が全国の推移を表している。

本県全体と全国の体力合計点は、平成30年度まで緩やかに上昇傾向を示し、小学校5年生男子を除いて過去最高を記録するなど、取組による一定の成果が表れていたと考えていたが、令和元年度からは、新型コロナウイルス感染症の流行による影響もあり、全国と同様に連続して低下した。今年度は、全ての調査対象で昨年度より低下しているが、中学校2年生男子のみ全国値を上回っている。

3ページ及び4ページは、今年度の県全体の平均値及び全国平均値並びに昨年度の県の平均値を種目別に比較したものである。今年度の平均値が全国値や昨年度の県の平均値を上回っている種目は矢印で表示

している。中学校2年生男子は4つの実技調査で県の昨年の平均値を上回っているが、全学年の男女で、20mシャトルランと持久走、さらに立ち幅とびの低下が大きくなっている。

5ページを御覧願いたい。全国的に過去最低を更新していることから、本県の新型コロナウイルス感染症流行前の水準以上を目指す必要があると考え、本県の体力合計点が過去最高値に近い記録だった平成30年度と、今年度の結果を比較したデータを示している。これを見ると、長座体前屈はまだ全ての学年で上回っているが、それ以外のほとんどの種目で低下傾向となっている。握力や50m走の開きはまだ少ないものの、20mシャトルランでは小、中学校ともに低下が著しく、持久力の低下が特に大きくなっている。また、特に小学校5年生男子のソフトボール投げについては、2m以上の低下が見られている。

6ページから13ページまでは、質問紙調査の結果となる。6ページは、学年、男女別に体育の授業以外の「1週間の総運動時間の状況」を示したグラフとなる。例年、全国的に小学生では運動時間が少なく、中学生になると運動部活動等により運動時間が長くなる傾向にある。本県も全国と同じ傾向ではあるが、運動習慣の目安である週420分、一日あたり60分の運動をしている割合は、全国と比較して小学生は少なく、中学生は多くなっている。小学生の運動時間を増やす工夫や、中学生の記録向上につながる運動の工夫が必要と考えている。

7ページを御覧願いたい。「運動やスポーツをすることが好き」と答えた児童生徒の割合であるが、小学生と比較して、中学生になると減少がみられる。昨年の結果と比較すると、男女ともに少しずつ向上しているが、引き続き、運動に対する興味関心や意欲を高める取組の継続が必要である。

8ページを御覧願いたい。食事の状況であるが、「朝食を毎日食べるか」という質問に対し、本県児童生徒は、「朝食を毎日食べる」という項目で、小学校5年生、中学校2年生の男女ともに全国を上回っている。

9ページを御覧願いたい。睡眠時間に関する質問であるが、男子は全国より睡眠時間が少なく、女子は多い傾向にある。

10ページは、児童生徒に対する質問紙調査結果からの抜粋である。「体育の授業が楽しい」と回答する児童生徒が、中学校において全国を上回る結果となった。小学校においては、すべての項目で下回っており、特に、体育の授業の達成感や、友人との関係づくりに関する項目が低い結果となった。

11ページは、学校、教員に対する質問紙調査結果からの抜粋である。全国に比べて「学校全体の体力・運動能力の向上のための目標を設定していた」割合が小中学校ともに低い状況となっているが、本県の昨年度の結果と比較すると、小学校では約8%、中学校では約13%の上昇しており、向上がみられる。各学校での取組意識は高くなってきたが、さらに結果につながる工夫が必要である。

12ページを御覧願いたい。「(4)運動部活動等の加入率」については、小学校では、全国と比べてスポーツ少年団等の地域のスポーツ団体等への加入率が低い一方、中学校の運動部活動加入率は、全国と比べて高くなっていることが分かる。また、「(5)曜日ごと運動時間」を見ると、本県の小学校5年生男女の曜日ごとの運動時間は、全国と比べて少なく、特に男子の土日の運動時間には大きく差があることが分かる。小学校5年生の1週間の総運動時間を平成30年度と比較すると、男子については全国で約30分、宮城県で約50分、女子については全国で約10分、宮城県で約20分短くなっていることが分かった。このことから、小学生の運動機会の創出や運動習慣の確立が課題であると考えている。

13ページは、スクリーンタイムの状況である。特に小学校5年生男子において、4時間以上の割合が全国と比べて高くなっている。これまでのデータ分析によると、スクリーンタイムが4時間を超える場合、体力合計点が著しく低下する傾向がみられている。今後はテレビやゲーム、スマートフォンに費やす時間を、どれだけ運動にシフトできるがポイントになると考えている。調査結果の概要は、以上である。

最後に、14ページを御覧願いたい。課題と今後の取組について御説明申し上げる。

「(1)課題」としては、「運動機会の創出と運動時間の確保」、「望ましい生活習慣の確立」、「運動が苦手な児童生徒に対する積極的な支援」の3つが挙げられる。

特に小学校5年生、中学校2年生とも男子のスクリーンタイムが増加傾向にあり、運動機会の喪失との相乗効果により、さらなる低下につながっていると考えられ、スクリーンタイムを運動時間に転換するための働き掛けも重要と考えている。

「(2)今後の取組」としては、特に4つのポイントを中心に取組んでいく。これらの取組は、10月

にも各学校に通知しているところであるが、今回の結果を受け、さらに危機感をもって、より一層各学校の組織的な取り組みを促し、教員の指導力の向上や、子どもたちの意識向上につなげられるよう、市町村教育委員会と連携しながら、来年度に向けて改善を図っていく。

本件については、以上である。

(質 疑)

小 川 委 員 握力からソフトボール投げまでの調査項目からどのようにして体力合計点が算出されるのか伺いたい。

保健体育安全課長 各調査項目は10点満点とされている。また、1ページにも記載しているが、持久走と20mシャトルランは選択制であり、小学生だとソフトボール投げ、中学生だとハンドボール投げとなるため、1人あたり8種目行うこととなる。これらの合計が「体力合計点」となり、80点満点で計算する。

小 川 委 員 20mシャトルランと持久走の点数の低下が、体力合計点の大きな低下につながっているとの説明があったが、今説明のあった計算方法との関係について、改めて伺いたい。

保健体育安全課長 各調査項目の結果を個別にみると、低下率が大きいのが20mシャトルランと持久走の項目となっているため、そのように説明したところである。

小 川 委 員 運動不足が合計点の低下の主な原因と理解して良いか。

保健体育安全課長 お見込みのとおりである。先ほども説明したように、総運動時間の減少がいちばんの問題と考えている。これは、新型コロナウイルス感染症の影響によるところが大きいと思うが、その分をきちんと補填するような対策をしていくことが必要と考えている。

小 川 委 員 そうすると、14ページにある「今後の取組」が、持久力の低下を防ぐためにどれだけ有効か疑問に感じる部分もある。Web運動広場の活用といった記載もあるが、やることを決めて取り組んでもらうより、校庭で自由に走ったり、サッカーやドッジボールをしたりして遊んでもらう方が、自然に走ったり跳んだりすることにつながるのではないかと思うが、いかがか。

保健体育安全課長 御指摘のとおり、運動量をいかに増やすかという方法論は様々あると思うし、各学校でいろいろな方法で取り組んでいただければありがたいと思う。ただ、Web運動広場の活用には、子供たち同士のコミュニケーションのきっかけになるなどの波及効果もある。そういった点も含めて、県としては体力だけでなく人間力の向上にもつながるよう、取り組んでまいりたい。また、Web運動広場には、短なわとび大会、長なわとび大会、マラソン大会の3種類を設定しており、取り組んでいただくことで持久力の向上につながると考えられるので、多くの学校に参加していただけるよう努めてまいりたい。

小 川 委 員 直接は関係ないかもしれないが、ある調査で丸一日小学校にいたとき、子供たちの様子を見ていて気づいたのだが、少しの下り坂があるところではほとんどの子供が走っていた。また、地面に丸を書いておくと、子供たちは「けんけんぱ」をしながら通っていく、ひとりがやり始めると、周りの子供たちもそれにつられていた。子供は環境条件が大事で、環境を整えてあげると自然と体を動かすのだなと興味深く感じた。体力だけでなく、コミュニケーション能力の育成や達成感といった観点からは、大人がこのような運動をしてほしいと思って子供たちに促していくことも大切かもしれない。ただ、先ほど紹介したように、校庭に土を盛って小さい山を作ったり、地面に丸を書いたり、それほどコストをかけずにできることも多いと思う。子供たちが自然と体を動かしたくなるような環境整備の方がより重要だと感じたので、そういった部分もぜひ検討いただきたい。

保健体育安全課長 おっしゃるように環境整備は重要であり、資料に記載されている方法以外のアプローチも必要と考えている。その中で、子供たちが自然に体を動かせるような環境作りについても示してまいりたい。

